

愛媛県における グリーン・ツーリズムの これまでとこれから

1. 「グリーン・ツーリズム」とは

「グリーン・ツーリズム」のもっとも一般的な理解は、「農山漁村を訪れる人たちが、その自然、文化、人々との交流やふれあいを楽しむ滞在型の余暇活動」というものです。このことばの語源は、イギリスで1970年代以降に盛んになった農村ツーリズム (rural tourism) が、象徴的に green tourism と呼ばれたことにあるようです。農村の過疎化・高齢化で一步先行した西欧諸国では、1970年代に、イギリスの「グリーン・ツーリズム」、ドイツの「農家での休暇」、イタリアで「アグリ・ツーリズム」といった新しい農村滞在型ツアーが広がり、「美しい村づくり」運動や、地場農産物・伝統的料理・手工業品などの見直し

と一体となって、農村における新たな就業と所得源にしようという動きが生まれました。それらがわが国にも知られるようになり、ヨーロッパに出かけて、それらを体験し、学びながら、「日本型グリーン・ツーリズム」といわれる、「田舎に親戚をつくる」や農業体験・調理体験など子育てや食育と結びついた運動が1990年代に始まります。よく知られているように、東日本では岩手県、西日本では大分県宇佐市安心院の「農村民泊」がその先駆けとなりました。もう一度整理すると、「グリーン・ツーリズム」の取り組みは、1995(平成7)年に制定された余暇法(農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備に関する法律)を基礎にして、従来型の観光開発よりも、都市住民との交流(都市農村交流)を通じて、

過疎化・高齢化に悩む農山漁村の活性化を図れないかという考え方をもとに進められていくとみてよいでしょう。出発点は、バブル経済に乗ったいわゆるリゾート法(1987年制定の「総合保養地整備法」)による大規模リゾート開発がバブル経済の破綻にともなって大失敗したことを肝に銘じながら、ゆとりや安らぎを求めるようになった都市住民の暮らしや意識の変化に依拠し連帯することで、農山漁村の活力の回復をめざそうという模索であったと考えられます。

2. 内子町・しまなみ・久万高原で 始まった愛媛県の取組み

愛媛県におけるグリーン・ツーリズムの



愛媛大学社会連携推進機構教授

村田 武

愛媛大学うわじまサテライト長

取組みは、内子町(2004年に「うちこグリーン・ツーリズム協会」設立)、今治市島嶼部・上島町(2000年に「しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会」設立)、久万高原町(2006年に「久万高原町グリーン・ツーリズム推進協議会」設立)などが先陣を切りました。そして、これら地域の先駆的な取り組みを全県的なものにしたと、愛媛県は、「愛媛県グリーン・ツーリズム推進会議」(所管は農林水産部農政課。会長は村田武)を設置し、2006年3月に「愛媛県にけるグリーン・ツーリズム推進方策」をとりまとめました。推進方策のポイントは、県内の多様な地域資源や個性を見直し、再認識しながら、「癒しの心を活かした接客・受入れ体制の確立」をめざそうということに置かれました。県は2007年には、グリーン・ツーリズムの中核的施設として期待される農林漁家民宿の開業を促進するために、「愛媛型農林漁家民宿要綱」を定めるとともに、「愛媛県グリーン・ツーリズム推進協議会」(事務局・農政課)を設立し、全県的な運動の展開を推進しています。そのホームページ「えひめGTナビ」は、年々充実した情報発信源になりつつあります。私自身は、この間、愛媛大学南予振興塾の塾頭として、グリーン・ツーリズムの推進方法を中心に、2007年春に「南予地域活性化総合セミナー」を南予各地で開催しました。また、伊方町で発足したNPO法人佐田岬ツーリズム協会が開講した「佐田岬ツーリズム大学」の学長を引き受けました。

その後、県内各地で農林漁家民宿が生まれ、東予で6軒(今治市5軒、上島町1軒)、中予で5軒(松山市1軒、伊予市1軒、久万高原町3軒)、南予で27軒(内子町9軒、八幡浜市1軒、西予市1軒、宇和島市6軒、松野町2軒、愛南町8軒)、県内合計38軒になっていきます。推進組織も、上に紹介したものに加え、西条市グリーン・ツーリズム推進協議会、伊予市双海地区グリーン・ツーリズム推進協議会、砥部陶街道グリーン・ツーリズム推進協議会、うわじま虹色ツーリズム、森の国グリーン・ツーリズムクラブ(松野町)、愛南グリーン・ツーリズム推進協議会が発足し、情報発信およびコーディネート機関として活動を進めています。

3. 「まねてグリーン・ツーリズム」

愛媛県のグリーン・ツーリズムの取組みのこれからにとつて、ぜひとも岩手県遠野市の戦略に学ぶべきだと考えます。

遠野市は、「自立した地域社会の形成」をめざす新たな戦略として、「まるごとグリーン・ツーリズム」を掲げ、それを担当するのは農政課長ではなく産業振興部長です。そして、グリーン・ツーリズムの目標は、「定住促進」だとしています。グリーン・ツーリズムは、「まちおこし」のキーワードとして位置づけることが可能であり、また必要です。県内では、内子町がその実践例として評価されます。

「里・山・海のグリーン・ブルー・ツ

リズム」が推奨されるべきです。地域資源の発掘・美しい里・山・海づくり運動とグリーン・ブルー・ツーリズム、すなわち、自然・歴史・文化・食が連携するというのが大切です。歴史を刻んだ集落と暮らしをもっと押し出すべきです。そのためには、「暮らしの景観」への関心をもっと高める必要があります。

高齢者にもやさしいツーリズム・コースの設定とそれを支える交通機関と宿泊施設の整備も必要でしょう。

そして、今、もっと強調されるべきは、グリーン・ツーリズムを地方中核都市とその中心街の活性化につなげることです。地方中核都市の活力回復と農山漁村活性化の一体的取り組みが求められているといってもよいでしょう。

私は、県下に、グリーン・ツーリズム運動の新たな担い手として、「合同会社久万郷」(久万高原町・井部健太郎代表)、「株式会社しまの会社」(上島町弓削島・兼頭一司代表取締役社長)など、新しい町おこし会社が生まれていることをたいへん頼もしく思っています。

愛媛県におけるグリーン・ツーリズム運動は第二段階に入るといふことでしょう。



愛媛大学南予振興塾 南予地域活性化総合セミナー

「南予地域活性化に何が求められるか」



愛媛大学は、愛媛県との協定により、南予地域活性化に取り組むため、平成18年8月に南予活性化対策協議会及び農学部に南予活性化推進本部を設置しました。

今回、南予活性化推進本部に「愛媛大学南予振興塾」を設置し、南予地域の各市町とタイアップしながら、農林水産業等の活性化策を探るため、本セミナーを企画・開催することにしました。

南予振興塾主催 南予地域活性化総合セミナー

日時	開催場所	テーマ	講師	コーディネーター
平成19年1月26日 18:30～21:00	八幡浜市役所	南予地域活性化と愛媛大学の役割	泉 英二	村田 武
平成19年1月27日 13:00～18:00	三崎公民館	佐田岬のツーリズム資源を見る		村田 武
平成19年2月9日 18:30～21:00	内子自治センター	南予地域活性化と植物工場	山下 淳 仁科弘重	村田 武
平成19年2月16日 18:30～21:00	愛南町城辺 社会福祉会館	科学技術はどのように 水産養殖に貢献できるか	若林良和 三浦 猛 高木基裕	村田 武
平成19年2月22日 18:30～21:00	大洲総合福祉 センター	地産地消を越えて －これからの農産物直販所に期待されるもの－	村田 武	藤原三夫
平成19年2月23日 18:30～21:00	西予市 中央公民館	これからのミカン産業に 求められるもの	水谷房雄	村田 武
平成19年3月1日 13:30～16:00	鬼北中央公民館	南予地域活性化とバイオマス事業化	森田昌敏 脇本忠明	藤原三夫
平成19年3月9日 18:30～21:00	松野町町民 センター	南予における 定住促進について考える	中川聰七郎	村田 武
平成19年3月16日 18:30～21:00	宇和島市役所	宇和島のツーリズム型観光の可能性	泉 英二 高井昭平 村田 武	藤原三夫